

# アマダイ通信NO.68

(Tile fish network letter)

08年百日紅咲く

## 知人・友人各位

玄関先で先日、蛇を見掛ける。緑がかった茶色で細い体をくねらせ、植え込みに消える。癌を手術して退院したその日にも、隣家との間の塀の上に、青大将だろう、大きな蛇が寝そべっていた。その後どうしたか気になっていたのだが、その子孫だろう。裏の小平用水のささやかな水と緑が、その生存を保障しているのか。侶れあいには気味悪がるが、蛇は吉兆という。蛇も共に生きていける都会の環境を、未永く維持していけたらと思う。

## 大腸がん a「余命19ヶ月」と b(治癒の見込みなし)5年経過・完治

ノーベル物理学賞に一番近いといわれた物理学者の戸塚洋二先生と、評論家の立花隆さんの対談「がん宣告『余命十九ヶ月』の記録」を読もうと珍しく、文芸春秋8月号を買う。手術後5年経過し、完治だといわれても、やはり気になるのだ。お前の癌は癌もどきだと言われながら、毎晩酒を喰らい、時にはガンモドキもツマミにしてしまう。だが、「治癒する見込みなし」と知ってしまった以上、完治だ！奇跡だ！といわれても、いや奇跡だと言われるから尚更、この世に奇跡などあるものか！このまま飲んだくれていたらいつか再発するに違いない！と最新情報について手が伸びてしまうのか？

治癒する見込みなし(岩波新書「胃がんと大腸がん」)といわれる大腸癌ステージ bで、上行結腸を30センチ切り取り、径5センチの腫瘍とリンパ腺を9箇所切除、3箇所のリンパ腺に癌が転移していた。リンパ節への転移があったが故にステージ bと宣告され、殆ど治癒する見込みなしとされるのに、術後5年経過、完治したといわれる。だが、ステージ a(ということは他器官への転移なし?)で腫瘍の径も3センチとより小さく、軽症と診断された先生が、手術時には手で触れるくらい腫瘍が大きく、下血したりしていたのに、なぜ重症の何の自覚症状もなかったのか？先生は手術後、肺、骨、脳と癌細胞が転移、最善の手を尽くすも、対談後、発売前に亡くなる。は5年経過時の前回検査の時、脳のCTをしていないし、骨の検査もしたことはないが大丈夫なのか？多少の不安も浮かぶ。

癌と宣告され、余命19ヶ月と宣告されてからも癌にかかりつきりになる、癌と闘うことが生活になるのではなく、がん「馴れ合い」ながら、残された時間を如何に有意義に使うか？社会に貢献するか？できるだけ日常生活に近い形で、ある程度酒もたしなむという点で戸塚先生には大いに共感する。だが、同じ抗がん剤の5FUを使いながら、先生はきつい副作用に苦しんだのに、副作用らしい副作用のなかった。術後、先生は腸閉塞に随分苦しんだのに、一切ない。随分個体差があり、だから先生は癌治療とがん患者のデータベース化を！と言われるが、医療の側はどう応えるのか？

## 水商売と堅い商売と

電源開発というと、石炭や石油で電気を作り、九電力会社に電力を卸売りする会社だ。が、元々は奥只見等のダムを持ち、水力発電からスタートした「水商売」の国策会社だ。民営化されて自由に商売ができるようになったので、新しい「水商売」をしたいという。

自治体が経営する水道事業を、経営難の自治体に代わって手掛けたいが、欧米と違って日本では水道事業の民営化は進んでいない。取り敢えず病院やホテル、大学、ショッピングモール等の大口水使用者で、災害時に避難場所や、救護所、食料等の供給場所の役割を果たす、公益的性格の強い事業者に絞って、井水利用の専用水道システムを設置、災害時の復旧が一番遅い水道インフラのツーウェイ化と併せた、水道料金の削減を勧めている。

工業用水を大量に使用する工場が太平洋ベルト地帯に所狭しと立地、煙突からは有毒ガスを吐き出し、排水溝からは毒液を垂れ流していた水不足の高度成長時代さながらに、今の日本の水道システムも水の使用を抑制するために、使えば使う程料金を高くし、地盤沈下を防ぐために地下水の利用を制限している。しかし、時代は変わり、水を大量使用する工場は地方へ、外国へと移転し、残った工場も循環使用等で劇的に水使用量を減らした。その結果地下水位も上昇し、駅ビルが水圧で浮上、アンカーを設置したり、排水ポンプを特別に設置する所もある。その上、日本の水道は巨額の費用で建設した山奥の大型ダムから水を引いてくるので、高コストで美味しくない。そこで、病院や大学、ホテル、ショッピングモール等に、電源開発のリスクと経費で深井戸を掘ったり、既存の井戸をリニューアルし、膜利用の浄化システムで高度処理した飲用水を格安の料金で提供する。

●も、訳あって電源開発のこの新規事業を応援している。事業者はノーリスク、投資不要で、資産を持つ必要がなく、水道システムをツーウェイ化してインフラのセキュリティを高めた上、水道料金を大幅に削減できる画期的システムだ。幾つかの国立病院や赤十字病院等にも導入され、東京でもホテル椿山荘の古井戸をリニューアル、年間3千万円近くの水道料金の削減を可能にした。札幌サンルートホテルや、直近でも京都駅ビルで使用水量の4分の1をこのシステムに切り替え、年間3千万円の費用削減につながった。

他方、三鷹寮の先輩の北社長から顔の広いところを見込まれ、東証1部上場の鉄鋼商社、阪和興業の顧問にもして頂いている。こちらはいわば「堅い商売」だ。最近、名鉄の新岐阜駅ビルや新潟南口駅ビルの建築案件でゼネコンに鉄骨を納めることになった。阪和興業の顧問になり一年余、ようやく受注が相次ぐ。新米営業マンの初仕事の気分だが、高橋カーテンウォールの高層ビルの外壁パネルと違って、ゼネコンの発注時期が格段に早いのでとまどう。鉄鉱石や石炭などの資源高騰に伴う鉄の価格高騰がそれに拍車をかける。石油価格上昇も含め、最近の資源価格の高騰は第1次、2次のオイルショックの時と様相を異にしている。新興国の需要増もあいまち、明らかに資源の有限性が意識され、価格を吊り上げることでいずれ枯渇する資源でより大きな利益を上げる、資源を長持ちさせる戦略に裏打ちされている。蒸発して上空で冷やされ、雨となって再生、自然によるリサイクルシステムの備わった水とは違うが、一度使った資源を最大限回収し、再生使用する、代替資源を開発する対抗策が必要とされる、大きな転換点に立っている。日本の腕の見せ所だ。

### マルクスだったらこう考える

地球人口は2005年に65億人、2050年に90億人となり、100年で25億人から90億人に増えるという。だが、資源の制約から地球が養える人口は80億人とも言われる。子や孫は確実に生きているこの先40年で、この地球が如何なる事態に直面するか考えると、少子化も高齢化も、必ずしも憂うべきことではなく、憂うべきは少子化高齢化を悪とする思考、人口が増え、GDPが増大しなければならないという生産力至上主義ではないか？

かつてのマルクス少年はマルクス主義的にはこう考えられないかと、時に考える。そんな時「マルクスだったらこう考える」(光文社新書、的場均著)を手にする。共感する所が多い。マルクスならグローバリゼーションの世界をどう考えるか?資本主義が世界中に行き渡り、アメリカ帝国主義が唯一の盟主として現れ、ようやくマルクスの世界革命の条件が成立した。資本による最大限の利潤確保のための低賃金追求と市場拡大のための賃金アップ、消費拡大・市場膨張のための絶えざる欲望の刺激と化石資源枯渇・地球環境破壊の大矛盾。フラット化による労働者階級のグローバル連帯とITによる働き方の革命、それが矛盾を解決するのではないか?いずれ「能力に応じて働き、必要に応じて取る」世界、「足るを知る」人間と持続的地球環境の両立の、実現条件が整いつつあるのではないか?

冷戦体制崩壊後の世界経済・グローバリズムをどう理解するか?レーニンの徒でもあった●は、彼の名著「帝国主義論」になぞらえた?「新帝国主義論」(東洋経済新報社、武者陵司著)にも惹かれる。レーニンの末裔?は、現代はアメリカ一國支配の世界帝国体制だと説く。冷戦が終結し、資本と労働市場の垣根が取払われ、グローバルな自由市場が出現し、競争が激化した結果、世界規模で好景気、低失業率が続いても、物価、利率も労賃も上がらない。この経済学の常識に反する事態をどう理解するか?資本市場と労働市場がそれぞれ一つになり世界がフラット化した。IT化で仕事が単純化・効率化して、何処でも、誰でも同じ仕事をこなせるようになった。プッシュの世界戦略の破綻と、資源価格の高騰によるインフレの波は、新たな世界の始まりをも予感させるが、今こそ、マルクスの世界革命の機が熟しつつあるのかもしれないなどと、妄想だけは逞しくする。

### 北京オリンピックと錬金術?・・・黄土高原だより(N0469)より

高見 邦雄(中国黄土高原緑化NPO「緑の地球ネットワーク」事務局長)

開会前から、こんなに話題になるオリンピックも珍しい。北京の友人たちの中には、「期間中は、どこかよそに行ってたいですよ。騒ぎに巻き込まれたくないし.....」という人がいます。たいていの人が、「早く終わって欲しいですよ」とこぼします。「メダル数を数えるようになれば、雰囲気も変わるよ」と、慰めると、「とれればいいけど、もし、とれなかったら?」と答えます。無事に終わってほしいものです。毎年実施している夏のボランティアツアーを、今年の夏はすべて中止しました。前倒して春に実施したものもあります。オリンピック開催中の北京を避けるためだったんですけど、大同の事情からいっても正解でした。大同の道路交通がマヒ状態なのです。

道路脇の沢山の建物に、ペンキで、「拆」(チャイ)と書きなぐられています。取り壊しです。「後退6米」などと書かれているものもあります。自動車の後退は簡単でも、建物はそうはいかない?そうやってまず道路を拡幅します。日本でこれだけのことをやるとしたら、大変でしょう。「計画10年、反対10年、買収10年、建設10年」などともいわれました。土地はすべて国有、が建前の中国ですから、7月にいくとどこもかしこも工事中でした。スーパーショベルがあちこちで働き、建物を崩しています。レンガ建てが多いですね。もうもうたる土ぼこり。この機会に上下水道や電気や電話のケーブルの地下埋設も進めるようです。深い溝が掘られています。ケーブルが地下に移れば、街の風景はすっきりするでしょう。ある時期に、日本もそうしておけばよかったですでしょうに。日本のように、道路の片側ずつ、などという面倒なことはしません。工事中の道路は、土を盛りあげて、全面封鎖。

しかも、4本の幹線道路で、同時進行。全ての車は残っている道路に集中しますから、そこも大渋滞。少なくとも、市街地の東半分はマヒ状態。西の郊外にある雲崗石窟方向へは流れているよう。

城壁の復原工事も始まっています。以前の大同は、「呂」の字のように2つの四角の城郭でできていました。北側は、「操場」といい、軍隊が駐屯し訓練する所。南側が大きく、一般の都市機能はこちらにあったようです。城壁の表面には高温で焼いた、灰色の大きなレンガが貼られていましたが、いつしか持ち去られ、黄土の版築だけが残りました。それを元に戻すというのです。善化寺のそばでレンガ積みが始まっています。城壁を復原しても、今のように城壁際まで住居やその他の建造物があったら、意味はないでしょう。城壁の内も外も、50mは建造物を撤去、後退させ、公園ふうに整備するそう。小さい方の操場でも一辺が約1km、南の大きい方の城郭は一辺が1.8kmあります。そして、城壁の高さは15～16m。使われるレンガだけでも膨大な量です。東西南北の門も、何年かかけてつくるそう。「地下の文物をみなければ、西安にいけ、地上の文物をみなければ、大同にいけ」というそうです。大同といえば雲崗石窟ですけど、それだけではありません。上下の華嚴寺、善化寺は、それについて有名ですけど、他にもお寺や楼閣が沢山あります。たいていはゴミゴミした下町にあって、観光対象になりません。トイレや汚水の臭いがプンプンといった状態なので、それらを整備します。雲崗石窟が世界遺産になっても、1か所では観光客はサッとみるだけ。泊まっても、1泊。2泊に延ばせれば、落ちる金も違ってきます。

それにしても、これだけのことをやる元手が、どこからくるのでしょうか？2000年に1t 60元だった石炭が今や750元。8年で12.5倍にもなりますから、それによる税収増だろうと考えていました。じゃ、ないんです。石炭価格は高騰しても、事故防止、安全確保などで生産量は落ちて、税収は増えていない。土地の使用権をお金に変えているそう。迎賓東路のあたりは市政府や、大同賓館、雲崗賓館などのある一等地ですけど、1ムー（667平方m = 200坪）当り570万元、日本円にすると、1坪45万円。工業用地は50年、その他は70年の期限付き。ディベロッパーがそれを買い、高層ビルなどを建て売りにだします。今の所、住宅なども2年で2倍のペースで値上がりし、先を争って買う人がいるんです。投機目的もあるでしょう。その先に何が来るのでしょうか？この話題、私のもうひとつのブログ、「続・黄土高原レポート」に、写真つきで3回連載しました。<http://blog.goo.ne.jp/takamik316>

### GENセミナー「中国の環境問題と日中協力」

2008年10月25日（土）15時～18時 立教大学池袋キャンパス8号館8101室

コーディネーター 上田 信さん（立教大学教授）

パネリスト 加藤千洋さん（朝日新聞編集委員/10チャンネルでお馴染み）

山本 勲さん（産経新聞編集委員/論説委員）

高見邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長）

主催/緑の地球ネットワーク（黄土高原緑化NPO） 共催/立教大学ESD研究センター  
参加費 無料 要予約 氏名/連絡先/参加人数をご連絡ください。

税制上の優遇措置をうける認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク（GEN）  
552-0012 大阪市港区市岡1-4-24 住宅情報ビル5F TEL.06-6576-6181FAX.06-6576-6182  
E-mail [gentree@s4.dion.ne.jp](mailto:gentree@s4.dion.ne.jp) URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>

### 人はなぜ人を殺し、食べてはいけないのか？・・・罪を憎んで人を憎まず

光市母子殺人事件で犯人に死刑判決が下され、娘と話す機会があった。娘は「私が強姦されて殺され、子供がいたとして、お父さんにとっての孫も0歳で床に投げ付けられ殺されても死刑を願わない？あの事件みたいな殺人に関しては私は死刑でいいと思う。死刑がなくなったら犯罪は凶悪化していくし、遺族も報われないと思う」という。●は「腸が煮えくりかえり、殺してやる！と思うだろうけど、生きて罪を償い、更正することを願う。無期刑と死刑で抑止力は変わらない。殺られたから殺り返すのでは問題は解決せず、ヤクザと同じだ。被害者救済と癒しは別途考えるべきだ」と応える。

かつて人類は猛獣の餌食となり、人が人を狩って食べ、奴隷として働かせた。あのギリシャ・ローマの華やかな文明でさえ奴隷の労働の上に築かれ、巨大なコロセウムではライオンと人間を格闘させ、数多の市民が歓声を挙げた。アメリカで奴隷制度が廃止されたのは古い昔ではないし、ナチスがユダヤ人をガス室送りにして「廃物利用」し、日本軍が中国で人体実験を行ったのは、ほんの半世紀余り前である。更に旧ユウゴなどで未だに続く「民族浄化」。21世紀になっても人間同士の殺し合いは絶えない。

弱肉強食の長い歴史を経て、人は、人が人を殺し、食べる、隷属させるのは忌むべきこととし、法で禁ずるようになった。国権の行使たる交戦権と刑罰権の行使を除いて。客観的には、食糧として人を不要とするほど農業生産力が発達、生産様式が発展する中で、強制された労働の低生産性が認識されたからだ。他方、自らが強いられるのを望まないことを他人に強いるべきではない、他人を生かすことで自らも生きることができるとの認識に達した故ではないか？

さらに進んで国権の行使としての殺人＝死刑、交戦権の行使としての大量殺戮＝戦争も禁止することで、獣と全く違う人の世界が初めて実現する。その意味で日本国憲法は他国の憲法に抜きん出た高みに立つ。その日本国憲法でさえ、明確には死刑を禁止しない。だが、死刑制度には「人間観の問題」以前の「技術的問題」もある。●も実体験した、避けがたい冤罪の問題だ。それは特に、日本の法律が、自白の証拠能力を否定していないところから生ずる。密室で捜査が行われ、自白の証拠能力が認められる限り、冤罪はなくなる。取り調べにビデオカメラを導入しようというのは、その意味で一歩前進だ。

死刑存続論は、司法の目的が、加害者に報復することで、リスクの大きさを示して犯罪を抑止し、併せて被害者感情を癒すことにあるという。だが、「罪を憎んで人を憎まず」という理念から発した司法の理想は、犯罪人を更正し、社会復帰させ、併せて犯罪の根を絶つことで、犯罪のない社会を実現することである。更正の機会を奪う死刑は正当化されない。学生運動で7回警察に捕まり、未決のまま足掛け3年刑務所暮らし、違う国だったら死刑になっていたかもしれない●が立派に更正？し、多少は社会に貢献しているように!?殺人犯にも更正の機会を与えるべきだ。歴史的にも報復は更なる憎悪を生み出し、果てしない悲劇へ繋がる。現在もパレスチナでアフリカで、メディアで報道されないが●が5月の連休に訪れた旧ユウゴでも、陰惨な憎悪と報復が今も繰り返されている。

### 大河ドラマ「篤姫」の挑戦・・・東大三鷹クラブ第80回定例懇談会

今回の講師の原口 泉 鹿児島大学教授と僕は、1968年に一緒に三鷹寮に入った。69年春の部屋替えで、原口君の属した『社思研2』と僕の『ムルソー』とは隣同士になった。

部屋同士の交流が始まると、ゴリゴリの活動家サークル『社思研』の思惑とは裏腹に、「社思研2のムルソー化」が進み、両部屋共同で、女子寮との合ハイ（合同ハイキング）を行うことになった。原口君と話をしたのは、その時が初めてだったと思う。穏やかな話し方と清潔感とが印象的だった。

何年か前、テレビから聞き覚えのある声が聞こえてきた。振り向くと、原口君が、NHK大河ドラマの時代背景を説明していた。彼と最後に話をしたのは、お茶の水駅から本郷構内行きの学バスに乗り合わせた時だった。文学部大学院で日本史を研究しているとのことであった。お父さんは、確か、鹿児島大学で歴史の研究・教育を担当していた筈だから、ご両親はさぞかし安心なさっていることだろうと、全共闘運動の残務整理をしていた当時の僕には似つかわしくない感慨を抱いたことを覚えている。その彼の肩書が、お父さんの跡を継ぐかのように鹿児島大学教授になっていた偶然に驚いた。

原口君は、現在放送されているNHK大河ドラマ『篤姫』でも、時代考証を担当している。インターネットサイト「原口泉倶楽部 (<http://satsuma-p.jp/haraguchi/index.htm>)」によれば、「南九州と薩摩藩の歴史」を専攻しているとのこと。宮尾登美子原作のドラマ『篤姫』も、彼の学識に裏打ちされて、より深い内容になっていることと推察される。

その原口君がこの度、定例懇談会で『大河ドラマ「篤姫」の挑戦』と題して講演して頂けることになる。毎週『篤姫』を楽しみにしている方々、原口君と時代を共有した仲間をはじめ、多くの皆さんのご参集をお待ちしています。その際、彼の著書『篤姫 わたくしこと一命にかけ 徳川の「家」を守り抜いた女の生涯』(グラフ社刊)を前もってご覧になっていれば、さらに理解が深まることと思われます。(昭和43年入寮 井上 豊 記)

日時：平成20年9月5日(金) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み) 別途二次会あり。

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: [tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

### 東大三鷹寮37年入寮同期会のご案内

月日のたつのは早いもので、元気凛々として勉強していた(遊んでいた)三鷹寮の時代がもう40年以上も昔のことになってしまいました。直近のことはよく忘れる私でも、寮時代のことはかなり覚えています。

この度、三鷹クラブ世話人の干場さん(41年入寮)から、37年入寮者の集まりを持ってはどうかとの話があり、一も二もなく乗った次第です。大学を出て40年、現役を引退された方も未だ頑張っておられる方も久しぶりに顔を合わせて旧交を温めるというのは如何でしょうか。多くの方々のご参加をお願いしたいと思います。(山内勇二)

三鷹寮には、1年生の前半しかお世話になっていないのに、たまたま、三鷹倶楽部のメンバーに加えていただき、倶楽部主催の学士会館での講演会には、割合と熱心に出ています。ヒューマン・ネットワーク構築の名人、干場さんのお世話で37年入寮同期の集まりが開かれると聞き、楽しみにしています。ちなみに私は東寮7号室でした。あのカイコ棚の寝室は旧きよき思い出です。(北 修爾)

歳を重ねるにつけ、大学時代が懐かしくなり、さらに、高校、中小学校と旧交を温める機会が多くなりました。群馬の山の中から出てきた私を鍛えてくださった寮の皆さんに感謝。1年間と入寮期間は短かったのですが、きっと皆さんのことを思い出せるでしょう。(思い出せなかったらゴメン！) (吉川廣和)

三鷹寮OBの皆さん、売店委員の岩下です。今でも、委員会のメンバーと毎年1回の旅行を楽しんでいます。顔を合わせると、46年の時空を飛び越えて、十代の頃の瑞々しい心に戻れるのが不思議です。出来るだけ多くのOBに参加頂いて、昔に返って騒ぎたいですね。応援部の山内勇次さん、貴君のお蔭で売店に大穴が明きました。じっくり話し合しましょう。(岩下俊士)

今回の企画を伺い、40数年前に初めて三鷹寮を訪れた日のことを、つい昨日のように思い出す。広大な野原にひっそりと佇む、幽鬼のような老朽建物を見て、こんなところに住むことになるのかと、思わず立ちすくんだことを。しかし、住み始めてみると、喧騒と感情の渦巻く垣塙のような寮生活にいつの間にか埋没していた。今では、三鷹寮が自分の社会生活の原点だったような気がしてならない。あの頃の懐かしい顔、顔に会えることを、心から楽しみにしている。(竹内舜哉)

なお、出欠の御返事は、Eメール又は同封の葉書で、三鷹クラブ事務局(有)ティエフネットワーク・干場)まで、御連絡下さるようお願いいたします。

日時 9月12日(金) 午後6時開場、6時半開会  
場所 椿山荘(文京区関口2-10-8、電話 03-3943-1111  
<http://www.chinzanso.com>)

会費 1万円(連絡費・名簿作成費他500円含む)

(呼びかけ人)岩下俊士、北修爾、竹内舜哉、吉川廣和、山内勇二

今回先輩諸兄に●が働きかけ、37年入寮の皆さんが同期会を開催する運びになった。昭和33年から35年入寮の60年安保世代、39年から43年入寮の70年安保・ベトナム反戦世代は活発に同期会を行っている。ところが、「戦間期」の36年から38年世代の同期会が行われたというのを聞いたことがない。この世代も同期会を行い、旧交を暖め、ネットワークを広げることは素敵なことだ。同期の交流が深まれば、三鷹クラブのネットワークも密になる。●が連絡役を務めさせていただいた。

そこで寮委員長をされた竹内、山内両先輩と、三鷹クラブで講演していただいた日清紡岩下社長、阪和興業北社長、DOWAホールディングス吉川会長に呼掛け人になっていただいた。37期は三鷹クラブには随分貢献しているのだ。会場は吉川先輩が会長を兼務されている藤田観光の椿山荘を使わせて頂き、案内状の作成・発送や名簿の編集・製作は●事務所が担当した。

これを機に36年、38年入寮組、32年以前へと同期会が広がり、東大入試のなかった44年を挟み、45年以降の若い世代へと世代間交流も深まり、三鷹クラブのネットワークがより密になればと思う。更に「東大三鷹国際学生宿舎」に衣替えした後の若い寮生にも輪を広げ、グローバルに展開、世界に貢献できるネットワークに成長、●も裏方として役立つことができれば、と思います。椿山荘や小林節社長(40年入寮)のパレスホテルなど、素敵な会場に協力して頂くこともできます。

### 横田君（1995年入寮）から突然のメール！

大変ご無沙汰しております！95年三鷹宿舍入寮の横田和彦です。95-96年にかけて2期寮長をしていたのですが憶えて下さっているでしょうか。ふとしたことで干場さんのサイトを見つけました。とても懐かしくて思わずメールを致しました。大病を患われたと聞きましたが、今ではすっかりお元気でご活躍されているご様子で安堵致しました。

私は2000年から留学、就職で海外に出て以来、浦島太郎のような生活をしていました。おとしに就職先のローディアというフランス系化学会社から日本の合弁子会社に異動となり、現在は神戸市と徳島県・阿南市の二箇所に住居を設け仕事をしています。毎日フランス本社と密に仕事をしているため、未だに日本に住んでいるという実感がほとんど湧きません。

ご多忙なのは重々承知しておりますが、今度ぜひ一杯一緒させてください。また神戸にいらっしゃることがありましたらぜひともご連絡ください。 横田 和彦

東大卒業後、ハーバードに留学し、フランスの会社に入社、日本支社に派遣され神戸にいる。ネットで検索、一緒に飲みたいとの横田君のメールに、さっそく返事。翌々週、大阪出張の帰り、新大阪駅で待ち合わせ、94年入寮の神戸の久米弁護士、GENの高見君の名代？の、GENの事務局員で、高見君や☛と三鷹寮同期の会田柏崎市長のお嬢さんに、美々卯でウドンすきと凍結酒を振舞う。

かって一緒に杯を交わし、寮生活、学生生活について、人生について熱く語り、寮祭、駒場祭、五月祭だ！と共に汗を流し、やがて海外で修行を積み帰国した若者と、十余年振りの酒席で話が弾む。タイのチュラロンコン大学で教鞭を取るアッピー君とハーバードで再会したという、かつての仲間の消息から、木パレットで輸出すると虫が出てクレームがつくが、プラスチックパレットは高いので、働いているフランスの化学会社で、☛の「おが屑パレット」を使いたいというビジネスの話まで、話題は尽きない。若者三人を残し、新幹線に飛び乗る。若い世代中心にワールドワイドなネットワークが形成され、彼等が日本と世界のために活躍してくれる！と思うと胸が熱くなる。

### 渋谷のどぜう屋で院生会のメンバー6人と暑気払い

特任教授で評論家の、立花隆ゼミで全共闘運動を勉強している田代君（07年入寮）から連絡があり、前期試験終盤の7月末、学生時代以来の畏友前田君を誘い、飯田橋で学生諸君と一杯やる。駒場祭で全共闘40周年の企画をしたいという。全面協力を約束する。

7月末日、渋谷のどぜう屋で、7月12日の留学生送別会で活躍した院生会のメンバーを慰労する。寮には留学生のチューター役で30人の日本人院生が在住。院生主体の留学生の世話役をする。メンバーは月崎竜童（04年入学・工学系・静岡高校）岩本洋子（04年修士入学・理学系・広島大学附属）西川功（02年入学・工学系・甲府第一）渡辺英和（06年博士入学・数理科学・日田）小松原孝文（04年修士入学・総合文化・岡山朝日）金子文大（07年博士入学・農学・松本県ヶ丘）

### シルクロード（ウズベキスタン）で茶色の水飲み、お腹壊す（詳細次号..再見!）

気をつけた積もりが、荷物出しでせかさされ、十分煮沸しない湯で作った味噌汁で・・・